

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵税共五十錢)



編輯 森野上 發行 森野上
印刷 森野上
社址 長野市上野
電話 二二二
郵政 郵便局
代印 印刷部

我國民はもつと絹物を使用せよ

N 生

從來蠶絲は我國產の主力とは稱しながら國內消費に俟つ所が頗る尠い。此國內消費が萎縮すれば總て海外に於ける生糸の人氣を不振ならしめるは當然にして生糸の國內消費を節約し其餘剩を海外に輸出して國際貸借の改善を圖ると言ふが如きは議論だけで實際に伴はない。生糸の輸出振興を圖らんとすれば先づ海外の人氣を喚起すべきである。

今日の絹織物の價格から言へば例へば銘仙の如きは殆んど價格に於て綿布やモスリンと同格若しくはそれ以下にあつて既に國民大衆の衣料たる條件は充分であるから今後一般國民

がもつと絹物を使用する様になれば唯に我蠶糸業の振興に益するのみならず他面木綿やモスリンの原料の輸入を防止する事にもなるのである。

而して此際絹物を贅澤品であると云ふ觀念は是非取除かねばならぬ。事實上今日では値段の點や耐久力の點から見て絹物は決して贅澤品ではない。況んや自國の製品で充分國內消費を充たし餘剩を海外にまで輸出する立場にある時之を贅澤品視する理由は更でない。國蠶愛用の立前からしても絹物こそ我國的衣料として愛用されねばならない。(六、五、五)

提案二つ

碓永 茂

姓名の「いろは順配列を」排す

凡そ姓名の配列にはいろは順によるもの・五十音順によるもの・ABC順によるもの三通りある。このうち現今最も多く用ひられてゐるのはABC順と五十音順で、いろは

順によるものは最も少ない。なぜさうか? それはABC順なら二十六文字で済み、五十音順なら、その頭文字アカサタナハマヤワの十を知つてゐれば、その他は自然と頭へ浮んで来るから、この二つなら引つぱり出すものの頭を勞することが最も

少なくて済むからである。それなのにいろは順はどうだ。いろは、四十八文字を頭の中で、繰返さなければならぬ。實に不便極まる。私はいろは順の姓名配列を見ると、うんざりする。そして引つ張ることが厭にさへなつて来て、まれにはそのまますつぱかして丁ふ。同時に私は、いろは順に配列されたものを見るといつも古くさい方法だなど考へる。

そして弘法大師は、いろはだなどとはへんなものを拵へて呉れて困りものだと思ふ。弘法大師がそんなものを拵へて呉れなかつたらこんな不便極まるものを使用しなくて済むものと弘法大師をうらむことが厭々だ。今日の、このスピード時代の大勢は、五十音順と、ABC順に傾いてゐるが、まれには古くさいいろは順が飛び出して來て引き出すものの頭を混亂させて閉口する。この種の方法を使用してゐる向きは速かに改めて頂きたい。

蠶絲文化科學への理解

科學を分類すれば、自然科學と文化科學の二つになる。自然科學といふのは、天然自然物をありのままの姿に於て研究する學問をいひ、文化科學とは人間が自然物に働きかけてゐる姿、並びに自然物を通じて、或は通さずして人間と人間とが交渉し合つてゐる姿を研究する學問である。即ち自然科學の對象には人間活動が除去されてゐるが、文化科學の對象には必ず人間の活動が含まれてゐる例へば物理學・化學・生理學・解剖學等は皆自然科學だが、經濟學・經營學・法律學等は何れも文化科學であ

る。

そこで蠶絲業方面ではどうか。勿論蠶絲業に於ても自然科學の分野と文化科學の分野とが割然と分たれて存在することは明かである。蠶絲生理・解剖を始めとして、蠶品種學・氣象學或は製絲機械學・生絲品質學(こんなものがあるかどうか知らぬが、セリブレンとか抱合とか、張力とか仲度の如きものをこころでは意味する)等は何れも蠶絲自然科學であるが、蠶絲業經營學・同經濟學・蠶絲法學等は何れも蠶絲文化科學に屬すべきものだ。(此の點に關しては拙稿蠶絲學界への一つの提案中央蠶絲報昭和六年二月號参照)

それは兎に角現今蠶絲業方面の人士の中には、蠶絲自然科學のみを認めて、蠶絲文化科學の存在を意識しない向が相當ある。即ち蠶絲學界

學科課程改正

母校學科課程は數年前一部改正が行はれたのみであつたが今回時世の進運に伴ひ社會の要求に合致するやう大改正が行はれた、尤も更に改正を欲する點もないではないが、暫く時期を待つべき事情もあるのである。然しながら今迄のやうにおつき

上田蠶絲專門學校學科課程

第二章 學科課程

第五條 各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ各學科目ノ毎週教授時數ハ修身ヲ除クノ外時宜ニ依リ之ヲ増減シ又必要アル場合ハ教授定時間外若ハ休業期間ニ於テ實習實驗ヲ課シ又ハ臨時講義ヲ聽カシムルコトアルヘシ

蠶絲學界の邊境とのみ心得てゐるものが少なくないらしい。かかる人士は兎角蠶絲文化現象を蠶絲自然科學の眼鏡を通して理解しようとするから、蠶絲文化現象に對しては途方もないことをいひ出して來るのが常である。

尤も現今我が蠶絲學界は蠶絲自然科學の方面が非常に前進し、蠶絲文化現象の研究が非常におくれてゐるから、以上のやうな結果に陥りもするであらうが、それにしても我が蠶絲學界が、文化現象的に重大な危期に直面してゐる今日、蠶絲自然科學萬能膏を貼附して、蠶絲文化科學を甚だしく閑却してゐるといふことは全く慨嘆の至りである。よろしく蠶絲文化科學への理解を進めらるべきである。

(一九三二、四、一九於目白)

學科目	學年			講義ノ部 (每週教授時數)
	第一學年	第二學年	第三學年	
修身	一	一	一	
體育	三	三	三	
英語	四	四	四	
佛蘭西語又ハ獨逸語				
物理學及氣象學	三	三	三	
化學	三	三	三	
動物學及昆蟲學	三	三	三	
植物學	三	三	三	
農學	三	三	三	
法制及經濟學	二	二	二	
農業經濟學蠶絲經濟論及範記	二	二	二	
微生物學	二	二	二	
蠶病學	二	二	二	
栽桑學	二	二	二	
養蠶學及蠶業汎論	二	二	二	
蠶種學	二	二	二	
蠶體解剖學及生理學	二	二	二	
土壤學及肥料學	二	二	二	
生理學	二	二	二	
纖維學	二	二	二	
製絲及乾繭論	二	二	二	
蠶桑化學	二	二	二	
電氣工學大意	二	二	二	
植民義	二	二	二	
特別講義	三	三	三	
計	三三三三〇	二九二四二六	(二九三)(二六三)(二五三)	

實習實驗ノ部
(每週教授時數)

學科目	學年			講義ノ部 (每週教授時數)
	第一學年	第二學年	第三學年	
修身	一	一	一	
體育	三	三	三	
英語	四	四	四	
佛蘭西語又ハ獨逸語	三	三	三	
物理學	三	三	三	
化學	三	三	三	
動物學	三	三	三	
植物學	三	三	三	
農學	三	三	三	
法制及經濟學	二	二	二	
農業經濟學蠶絲經濟論及範記	二	二	二	
微生物學	二	二	二	
蠶病學	二	二	二	
栽桑學	二	二	二	
養蠶學及蠶業汎論	二	二	二	
蠶種學	二	二	二	
蠶體解剖學及生理學	二	二	二	
土壤學及肥料學	二	二	二	
生理學	二	二	二	
纖維學	二	二	二	
製絲及乾繭論	二	二	二	
蠶桑化學	二	二	二	
電氣工學大意	二	二	二	
植民義	二	二	二	
特別講義	三	三	三	
計	三三三三〇	二九二四二六	(二九三)(二六三)(二五三)	

製糸科
講義ノ部
(每週教授時數)

備考 一、每週教授時數中括弧ヲ附シタルモノハ選擇科目トシ英語ト佛蘭西語又ハ獨逸語ノ内各一學ヲ選擇セシムルモノトス
二、蠶桑化學ハ蠶桑學ノ一環トシ蠶桑學ノ他ノ學科ニ關スルモノハ蠶桑學ノ範圍ニ屬セズ
三、蠶桑化學ハ蠶桑學ノ一環トシ蠶桑學ノ他ノ學科ニ關スルモノハ蠶桑學ノ範圍ニ屬セズ
四、蠶桑化學ハ蠶桑學ノ一環トシ蠶桑學ノ他ノ學科ニ關スルモノハ蠶桑學ノ範圍ニ屬セズ
五、蠶桑化學ハ蠶桑學ノ一環トシ蠶桑學ノ他ノ學科ニ關スルモノハ蠶桑學ノ範圍ニ屬セズ

學科目	學年			講義ノ部 (每週教授時數)
	第一學年	第二學年	第三學年	
物理學及氣象學實驗	三	三	三	
化學實驗	三	三	三	
動物實驗	三	三	三	
植物實驗	三	三	三	
農學實驗	三	三	三	
法制及經濟學實驗	二	二	二	
農業經濟學蠶絲經濟論及範記實驗	二	二	二	
微生物實驗	二	二	二	
蠶病實驗	二	二	二	
栽桑實驗	二	二	二	
養蠶實驗及蠶業汎論實驗	二	二	二	
蠶種實驗	二	二	二	
蠶體解剖實驗及生理實驗	二	二	二	
土壤實驗及肥料實驗	二	二	二	
生理實驗	二	二	二	
纖維實驗	二	二	二	
製絲及乾繭實驗	二	二	二	
蠶桑化學實驗	二	二	二	
電氣工學實驗	二	二	二	
植民實驗	二	二	二	
特別實驗	三	三	三	
計	無定時九 無定時九	無定時九 無定時九	無定時九 無定時九	

向山隆福氏嚴父 よりの御手紙

逝ける向山のことども同氏嚴父より詳しく御來信があつたから左にその全文を掲げてお傳へする。

拜復

御懇香奉謝候隆福在世中は御厚情に預り千萬忝く厚く御禮申上候埋葬式の際には貴會々長針塚閣下の御會葬且御懇篤なる御弔詞を賜り眞に有難く故人の靈限りなく慰められ極樂往生疑ひ無之と存ぜられ一門舉つて感謝仕候同窓生の一人一人に親しく拜願御禮申上度存じ候へ共それとも出來兼ね申候に付御序の節何卒宜敷御傳言被下度御願ひ申上候
御尋ねの件病氣等の爲に遅延仕り申譯無之候概要別紙の通りに御座候間御承知被下度御禮旁々御報知申上候
敬具

向山 益助

上田蠶糸専門學校同窓會御中

別紙

遺族としては妻の靜江、長男幸夫の二人に御座候長男は昨年四月大阪府下の小學校に入學仕り遺妻は長男を守りて大阪に居り朝夕の讀經故人の冥福を祈り申候處隆福の死去に依りて寂漠悲歎精神上に多大の痛みを受け服藥を續け居り候其の生家は滋賀縣甲賀郡柏木村にて父を木下仲司と申し其の一人娘にて元京都府知事の仲人にて結婚仕候實母も未だ在世中に有之候處昨年春より病氣の爲就床罷在候依て共に相慰め且看護の必要有之候に付長男幸夫の一學期の修了

實驗實習ノ部
(每週教授時數)

絹絲紡績科

講義ノ部
(每週教授時數)

一、毎週教授時數中括弧ヲ附シタルモノハ選擇科目シ
二、毎週授課ノ語トス
三、蠶兒飼育ノ實習ヲ含ム
四、校外實習ハ六月ヨリ七月ノ間ニ於テ之ヲ課ス
五、特別講義年ハ製絲化學ノ熱機關學實習ヲ含ム
六、卒業製蠶又ハ調査研究報告ノ提出期ハ養蠶科ニ準ス

製絲實習	繭檢査	工場管理	校外實習	絹絲化學實驗	卒業製作又ハ調査研究報告	計
三	三	三	一回 無定時	六 無定時	九 無定時	無定時
三	三	三	一回 無定時	一 無定時	一 無定時	九
七	七	七	一回 無定時	一 無定時	一 無定時	一六
七	七	七	一回 無定時	一 無定時	一 無定時	同上
七	七	七	一回 無定時	一 無定時	一 無定時	一六

と共に生家なる右木下仲司方に参り子供は同村小學校に轉校致し實父母と共に同居致候生家は生活に足る程度の資産を有し居候尙最近三月二日に於ける通信によれば長男幸夫は本年二月流感にかゝり未だ服藥は續け居候も毎日通學致居候母も神經痛にて腰部痛み未だ看病を要し自分も追々快方には向ひ居候へ共未だ充分ならず元この病は精神の愁傷より引起したるものなるを以て務めて精神を勞せざる事を醫者よりもよく／＼注意致され居候爲極力心身の安靜に務め居候其爲各方面に御無沙汰致居候惡しからず御寛容被下度父は壯健に御座候との事に候辭江は高等師範卒業なるを以て都合に依つては再び教鞭を取る考も一時は有之候處以上の通り實母も病み自分も惱めるを以て其の望は今の處無之候以上の狀態にて生活の方に於ても大いに力をお盡し被下居り私としても兩人前途の事に付ては十分力添仕るべく候に付何卒御放念被下度候

唯最も尊敬する最も親しく限りなき恩愛に預り候貴會々長初め母校の先生方の御薫陶を戴き同窓生諸君の援助を得て漸く社會に出で、これより御恩愛の万分の一にも報ぜんものと存じ居り候處中途にして倒れ誠に残念至極に存じ候學校の學年末に相成り思ひ出し候事は會て上田在校中は上田より汽車を用ひず自造の草鞋を用ひて徒歩にて歸宅仕り夜半戸を叩きし事もあり又外國に留學の途神に参りて故國の土を再び踏ましめんとならば健康にして十分研究を得らるゝ様援け給へと祈願の事も悲しみの程に相成候今は乾坤一轉して花咲

學科目	學年	第一學年			第二學年			第三學年		
		學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三
物理學實驗	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
化學實驗	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
機械設計製圖	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
機械工作電氣工學	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
大小實習	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
紡績實習	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
織物實習	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
染色實習	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
製絲實習	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
校外實習	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
絹絲化學實驗	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
卒業製作又ハ調査研究報告	學期第一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	學期第一	無定時	無定時	無定時	無定時	無定時	無定時	無定時	無定時	無定時

備考
一、毎週教授時數中堅括ヲ附シタルモノハ選擇科目トシ英語ト佛蘭西語ト
二、又ハ獨逸語ノ内其ノ一ヲ選擇セルモノハ隨意科目トス
三、毎週教授時數中堅括ヲ附シタルモノハ選擇科目トシ英語ト佛蘭西語ト
四、卒業製作又ハ調査研究報告ノ提出期ハ養蠶科ニ準ス
五、校外實習ハ七月月中旬ニ於テ之ヲ熱機關學實習ヲ含ム

實驗實習ノ部 (毎週教授時數)

色染論	二
織物仕上論	二
乾燥給濕論	二
工場法、工業經濟、工業簿記	二
精練漂白論	二
蠶絲小論	二
莫大化論	二
絹絲化學論	二
物理演習	二
植物化學	二
植民講話	二
計	二

教婦養成科新設

從來母校製絲部において製絲業手の成績優秀なるものを教婦として全國の製絲工場へ送つて居つたが、今回正式に教婦養成科が新設された。その第一回募集ハ五月十一日締切られたが、程度は高等女學校卒業程度で、繰繰経験者には幾分の特點がある。詳細の規程は次の如くである。

上田蠶絲專門學校製絲教婦養成科規程

講義ノ部 (毎週教授時數)

學科目	學年	第一學年			第二學年		
		學期第一	學期第二	學期第三	學期第一	學期第二	學期第三
修身作法	學期第一	一	一	一	一	一	一
國語作文	學期第一	一	一	一	一	一	一
數學	學期第一	一	一	一	一	一	一
物理及化學	學期第一	一	一	一	一	一	一
電氣及機械學大意	學期第一	一	一	一	一	一	一
關係法	學期第一	一	一	一	一	一	一
原料貯藏論	學期第一	一	一	一	一	一	一
乾繭貯藏論	學期第一	一	一	一	一	一	一
製絲整理及検査論	學期第一	一	一	一	一	一	一
生絲整理及検査論	學期第一	一	一	一	一	一	一
屑物整理論	學期第一	一	一	一	一	一	一
工場管理論	學期第一	一	一	一	一	一	一
養蠶論	學期第一	一	一	一	一	一	一
特別講義	學期第一	一	一	一	一	一	一
計	學期第一	無定時	無定時	無定時	無定時	無定時	無定時

實習ノ部 (毎週教授時數)

- 第一章 總則
- 第一條 製絲教婦養成科ハ製絲業ノ教婦タルヘキ者ニ必要ナル教育ヲ施スヲ以テ目的トス
- 第二條 修業年限ヲ二ケ年トス
- 第二章 學科課程
- 第三條 學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ
- 但シ必要ノ場合ニ於テハ教授定時間外又ハ休業期間ニ於テ臨時講演ヲ聽カシメ又ハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

く春は訪れ來り候へ共私は未だ思ひ出しては風寒き落葉の秋の心地致し度候大阪に於ても彼の工業獎勵館を益々擴大して一面海軍艦製本部陸軍參謀等の諸公をも訪ひ他日の壯圖を殆ど寢食も忘れて計畫致したる事有之候へ共是は世に現れず終り唯後進に待つの外無之候其の死に臨み針塚校長殿を初め諸先生並に同窓生諸君に宜しくと申し遺して満三十八歳を以て永の御別れをなしたる事早くして誠に申譯御座無く候

思へば一昨年の春頃より創業の爲に俄々多忙にて身骨を勞し冬の頃には實に多端かくては長命覺束なきを信する旨獨言ありたるを思へば餘程過勞を續けたる事と存ぜられ度く郷土にて郷土誌を編纂し其の序文を託さるゝも遂に日は迫り電報序文として表れ居るの點又祖先の事業を記念する爲一門相集り碑を建設し小公園を造りたるを一度見度と謂ひしも遂に見る事なく又學位を以て後一度も歸郷なく郷人と樂しむ事も圖られず五月廿日他界に旅立ち申候過勞の連續は有害なる様相覺え申候へば何卒諸先生御同窓生各位御健康にして御國の爲に御盡力を遊るゝと共に此上とも益々御一家の御多幸切に御祈り申上候終りに隆福在世中の御厚情を再拜奉謝度候

三月十日 隆福父 向山 益助

同窓會員各位
私病氣及滋賀の近情問合の爲
甚遲延奉謝度候

科目	學年		
	第一學期	第二學期	第三學期
製絲實習	無定時	同上	同上
繭檢査	三	同上	同上
生絲整理及檢査	無定時	同上	同上
繭物整理	無定時	同上	同上
殺蛹乾繭	無定時	同上	同上
計	無定時	同上	同上

備考 一、毎週教授時數ハ修身ヲ除クノ外實習ノ際ニヨリ之ヲ増減スルコトアリ

二、特別講義ニ於テハ本科目以外ニ必要ト認ムル學科ニ就キ之ヲ行フ

第三章 入學及在學

第四條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期

ハ學年ノ始メ一ヶ月以内トス

第五條 入學ヲ許可スヘキモノハ品行方正志望鞏固ノ女子ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノヨリ之ヲ銓衡ス

一、高等女學校卒業業者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スト認ムル者

二、高等小學校卒業後一ケ年以上製絲業ニ従事シ其ノ成績優秀ナル者

第六條 入學志願者ハ自筆ノ入學願書(第一號書式)履歷書(第二號書式)ニ身體檢査證(第三號書式)及戸籍抄本寫眞(志願前六ヶ月以内ニ撮影シ裏面ニ氏名ヲ自書シタル手札形)ヲ添ヘ學校長ニ差出スヘシ

第七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ遲滞ナク保證人連署ノ誓書(本校所定)ヲ學校長ニ差出スヘシ

第八條 保證人ハ上田市又ハ同市附近ニ居住シ獨立ノ生計ヲ營ム成年ノ男子ニシテ生徒在學中ニ係ル一切ノ事件ニ就キ其ノ責ニ任スヘキ者タルヘシ上田市又ハ同市附近ノ

スルコトアルヘシ

第十六條 授業料納付期以前ニ停學ヲ命ゼラレ又ハ休學シタル者ハ其ノ月ノ授業料トシテ金壹圓八拾錢ヲ指定ノ日ニ徴收ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ事由ノ生シタル月ヨリ一ヶ月金壹圓八拾錢ノ割合ヲ以テ次ノ授業料納付期ノ前月マテノ授業料ヲ指定ノ日ニ徴收ス 但第一號又ハ第二號ニ該當スル者ニシテ其ノ期ノ授業料納付済ノ者ニ對シテハ此限ニアラス

一、停學ヲ解除セラレ就學シタル者

二、休學ノ事故止ミ就學シタル者

三、學期ノ半途ニ於テ入學ヲ許可セラレタル者

第十八條 本規程以外ノ事項ハ總テ上田蠶糸專門學校規則ヲ準用ス

附則

第一號書式(用紙美濃)

入學願書

私儀製糸教養養成科ヘ入學志願ニ付御許可可成度別紙履歷書、身體檢査證及戸籍抄本寫眞相添ヘ此段相願候也

年月日 入學志願者何某

上田蠶糸專門學校校長針塚長太郎殿

第二號書式(用紙美濃)

履歷書

何年何月ヨリ何年何月マテ何地何所ニ於テ製糸業ニ従事又ハ何業ニ従事ス

一、賞罰

何年何月何所ニ於テ何々ノ賞罰ヲ受ク

一、家業

何業

右之通相違無之候也

景報

●丹綾會創立總會

同窓會三丹支部では今度會名を丹綾會と改稱し去る四月十九日其創立總會を開催した。寫眞は當日の記念寄書である。

●紡績科長更迭

母校石倉教授は絹糸紡績科の創設に身を以つて努力せられ續いて同科々長の重職に居られたが、母校もすでに二十年を越え紡績科の陣容も整つたので科長を岡徳次郎教授に譲り、同科内にあつて研究に没頭せらるることになった。



●針塚校長轉宅

●小林庸氏榮進

青森縣蠶業試驗場技師小林庸氏は今回同試驗場長に任命された。

體身長格
體重
胸圍
中心視力
色盲
聽力
呼吸器
神經系
皮膚
既住及現在ノ疾病又ハ畸形
右檢査候處相違無之候也
檢査年月日 現住所
醫師何某

轉宅されたことは前號にも記したが、今度のお宅をお訪ねするならば市役所へ行き當つて右へ曲つて一町ばかり行くと左手に大きな門のある家がそれである。

校内移動

太田書記 宮崎高等農林學校へ
飯嶋書記 退職
後藤囑託 解囑

右の外寄宿舎に永年お馴染の小林兼作氏が引退され、同時に野池小使も引退その代りに本館の山本小使が寄宿へ、又巡視では松村巡視が解雇になり細谷巡視が學生課勤務となつた。最近にはまた教養養成科が出来たので多少の移動があるやうである。かうした細かい移動のために雇員連の心はいささか落付かないやうである。校内の山櫻もすでに過ぎたが今年の花を人々は何と見たか
太田書記の代りには宮崎高等農林學校の會計課長が代つて來らるゝ筈、後藤少佐は暫く上田で住まはれるやうである。

辭令

長野縣農林技手 小林 繁
地方農林技師ニ任ズ
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
長野縣農林技手 永田 平
地方農林技師ニ任ズ
高等官八等ヲ以テ待遇セラル
上田蠶絲專門學校教授 井上 柳梧
補上田蠶絲專門學校生徒主事
同 古谷 榮藏
上田蠶絲專門學校生徒主事ヲ免ス
(四、二)

靜岡縣立田方農學校教諭 小松原 徳治
公立實業學校教諭兼公立實業學校會監ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
地方農林技師 高須 兵司
福島縣農林技師ニ補ス(四、二二)
公立實業學校教諭從七位 小林 勳
公立高等女學校教諭兼公立實業學校教諭ニ任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル

學校日誌 (四月中)

四月一日 入學合格者發表
本年度入學志望者總數は五百五十五名にして開校以來最高のレコードを示せり之に次いで多きは開校初年四百一名にして昭和二年三百七十八名之に次ぐ本年度合格者數は養蠶科四十名製絲科三十九名紡績科二十一名總數百名也。

四月十日 先輩水嶋氏の訃
第一回製絲科卒業生にして卒業以來祖父の衣鉢を襲ひ郷里長野市に於て健闘せる先輩水嶋由太郎氏の訃に接す 市會議員に當選せること二回現に其の職にありて非常な將來を囑せられしが病を襲ひ入院し一時輕快をさへ傳へられしが不幸突如として逝く、母校のため惜しみて余りあり 謹みて哀悼の意を表す本會を代表し林理事出長告別式に參す。
四月十二日 入學式舉行
新入生九十一名を迎へ入學式を舉行す茲に百名許可されしが中途退學を申出でたるもの數名ありて結局左記九十一名となる。

養蠶科 三三名 選科三名
製絲科 三三名 同 七名
紡績科 一四名 同 一名

此の中無試験入學を許可されしは養蠶科二名製絲科三名紡績科一名なり從來入學試験科目は英語數學物理化學の四目なりしが本年度より僅に英語の二科目となり其の關係が否か受験の結果實業學校出身にして許可せられたるは三科を通じ僅に二名に過ぎず。

四月十四日 常任理事會開催
松村理事長歸朝に關し諸事打合せのため常任理事會開催す。

四月十六日 松村理事長歸朝
日本に於ける蠶絲業の驚嘆すべき進歩を歐洲の學界に献じ吾が日本の存在を全世界的に呼びかけんとする大なる使命を帯し去ぬる八月六日日出づる國を出發し報告の使命を果したる榮名を以て米歐各國の視察を遂げたる吾が理事長松村季美氏本日歸朝さる。

學會に於ては日本のために萬丈の氣焔を吐きていささか毛唐の度胸を抜き視察に於ては學問に實際に詩に歌に或はユーモアに所謂松村イズムの獨特なる觀察と所感を書にして本誌に寄せ超人間的なる能率百パーセントの功績を挙げ胸間に殊勳を輝かせつゝ吾が先輩松村氏本日歸朝さる。

其の成功に就ては何等疑をささむ余地なかりしが獨り其の健康を心ひそかに憂ひたるに其の健康たる舊に倍したる意氣を以て吾が長友松村季美氏本日歸朝さる。
吾等千余名の同窓之を欣ばずして何をか欣ばん不知本日の欣快の深さを。
本會より林理事倉澤理事横濱埠頭に出張し同氏の歸朝を迎ふ 今日稀に

見る快晴平穩にして櫻花棚引き絶好の松村日和なりき。

校長先生を始め多數東京横濱長野在住の先輩の歓迎を辱ふしたること感謝す特に横濱千曲會の歓迎會の厚遇を深謝す。

四月二十一日 松村氏歡迎會
學校職員並に在田同窓有志相計り母校新校堂に於て松村氏歸朝祝賀會を開催す、會するもの八十四名 校長開會の辭に於て松村氏の健康にて歸朝せることを心より祝し松村氏萬國動物學會議の模様を一時半に亘りて詳細報告し消生教授閉會の辭を陳して終る、此の間僅に二時間にして茶菓の饗應に過ぎざりしが興趣盡きざるものあり近來稀に見る盛會なりき。

四月二十六日 幹事窪田氏の嚴父御長逝
本會幹事窪田潤氏嚴父長々御病氣の所遂に本日御死去遊ばさる哀悼に不堪本會より電報にて弔意を表す。

四月二十八日 教養養成科設置
從來の形式を廢し新に教養養成科設置さる入學程度は高等女學校卒業者又は之と同等以上の學力を有するもの及び高等小學卒業後製絲業に従事し技術に熟練せるもの修業年限二ケ年授業料十八圓(年)毎年約十五名募集、本年も約十名の募集にて五月十日より新年度開始の豫定希望者殺到の見込みなり。

四月三十日 校庭の櫻花満開
校庭の道路を彩る山櫻は成木として已に當市の名所に數へらる、平年より約三日後れの本日満開、本月の氣候概して寒く且つ不順にして一般作物の發芽成長甚しく後れたりしが四月

月末の急戦なる暖氣に稍恢復し遲延四、五日に濟む養蠶の掃立五月十四日の豫定、即ち平年より約二日晩し。
以上 (Y・K)

住所の移動及訂正

(自三月至四月)

丸山俊一郎 蠶一 共榮社蠶種部(長野縣東筑摩郡鹽尻村)
小見益男 蠶三 中華民國杭州留守蠶業改良場
吉川誠彦 同 甲府市錦町米倉旅館(客舎訂正)
志田傳次郎 同 長野縣蠶業取締所福島支所(西筑摩郡福島町)
齋藤菊雄 蠶六 同上田支所(上田市)
小林 勳 同 屋代高等女學校(長野縣埴科郡屋代町)
橋本武光 蠶七 關西製絲株式會社蠶種部(三重縣津市)
中島茂司 蠶八 長野縣蠶業取締所篠ノ井支所(更級郡篠ノ井町)
小林 繁 同 長野縣蠶業試驗場上田支場(上田市)
柴田一 同 高橋と改姓
鈴木貞治 蠶九 宮城縣登米郡佐沼町
中島文雄 同 熊本縣蠶業取締所宮地支所(阿蘇郡宮地町)
尾藤省三 蠶一〇 本校蠶絲化學教室
奥野憲三 蠶一一 會田實科中等學校(長野縣東筑摩郡會田町)
丸山十吉 蠶一二 上水内郡北部農學校(長野縣上水内三水村)
原 茂 蠶一三 養蠶農學校(北佐久郡岩田村)
沼田周達 同 石川縣農林課(金澤市)
加々井精喜 同 龍江生絲販賣利用組合(長野縣下伊那郡龍江村)
小澤 勇 同 長野縣蠶業取締所伊那支所(上伊那郡伊那町)

内田訓之助 同 上諏訪支所 (諏訪郡上諏訪町)	若林喬夫 同 農林省蠶業試驗場 (東京市外杉並町)	小坂田 亮 同 岡山縣津山市田町九 ○	成尾喜八郎 同 肥後製絲株式會社 (熊本)	内藤邦雄 紡九 大阪府内務部工務課 東地 宏 紡一〇 東京府下灘谷町中 通り二ノ三〇岡本公證役場
小山哲夫 蠶一四 上田市相生町 中會根長男 同 九州帝大農學部農 藝化學科(福岡市外箱崎町)	河野芳春 同 郡製絲株式會社 (京都府綾部町)	藤本與太郎 絲七 高田市南東町二丁目 富田庄三郎 絲八 廣島縣深安郡本庄村 竹内健二 絲一〇 東京府中野町桃園 四五	中會根靜三 同 共榮社本部(長野縣 東筑摩郡芳川村)	和田貞政 同 兩毛製絲株式會社 (桐生市)
中村岩人 蠶一五 本校養蠶科 山下忠雄 同 秋田縣農務課(秋 田市)	河淵益美 同 新綾部製絲株式會社 蠶事課(京都府綾部町)	金野巖保 絲一二 上高井蠶業學校 (長野縣須坂町)	野田太郎 同 大分縣東國東郡武藏 野成吉七七	柳澤信義 同 本校絹紡績科(研 究)
遠藤正壽 同 小牛田農林學校(宮 城縣小牛田町)	笠原四郎 同 常田館蠶事部(上田 市)	櫻井卓三 同 奈良縣蠶業試驗場 格付檢定所(高市郡八木町)	八木 喬 同 千葉商會(東京市本 郷區菊坂町三七)	小林忠十郎 同 原名古屋製絲所(名 古屋市西區田幡町)
針塚民一 蠶一六 小杉農學公民學校 (富山縣射水郡小杉町)	河田榮一 同 本校物理學教室 竹内直人 同 小口組製絲場(茨城 縣新治郡石岡町)	兒玉 來 絲一三 共榮製絲場(滋賀 縣彦根町西馬場)	山田保士 絲一八 龜山製絲株式會社 (三重縣龜山町)	佐久間幸一 同 福島紡績株式會社 紡工場(兵庫縣飾磨町)
宮本清松 同 龍東農蠶學校(長野 縣下伊那郡寄木村)	高瀬毅一 同 本校生物學教室 山本賢市 同 本校蠶絲化學教室 山本卯一 同 高木館製絲所蠶事部 (長野縣上伊那郡伊那町)	飯濱 榮 絲一八 田中製絲株式會社 (長野縣小縣郡田中町)	松井憲二 同 府製絲株式會社 (東京府青柳町)	武井一郎 同 長野縣諏訪郡平野村 九三一九
王 福山 蠶一七 中華民國杭州建設 廳第四科	古川正喜 同 長野縣蠶業取締所岩 村田支所(北佐久郡岩村町)	井野正夫 同 絹業試驗所(橫濱市) 馬場 武 同 備作製絲株式會社 山工場(岡山市上伊福)	越 英信 同 片倉製絲紡績株式會 社(姫路工場(姫路市))	西村盈保 同 昭和絹絲株式會社 (大阪府高槻町)
工藤見吉 同 全羅北道蠶業取締所 (朝鮮全州)	藤井四郎 同 立川蠶業取締所(東 京府北多摩郡立川町)	馬場 豐 同 片倉製絲株式會社松 江製絲所(島根縣松江市)	赤松與一 同 生絲檢査所(橫濱市 本町)	細井 滿 同 東京市外巢鴨町宮下 一六二〇
佐藤 馨 同 斐太製絲株式會社片 野工場(岐阜縣大野郡大田町)	坂口正信 同 小口組製絲場(茨城 縣新治郡石岡町)	西尾重郎 同 關西製絲株式會社 (三重縣津市)	酒井淳夫 同 同 桐原達郎 同 清水製絲池田工場 (豐橋市池田町)	瀨脇休信 同 鹿兒島縣肝屬郡無水 町海湯五八九
中澤利三郎 同 長野縣蠶業取締所松 本支所(松本市)	淺川武男 同 赤穂公民實業學校 (長野縣上伊那郡赤穂村)	千葉達人 同 郡製絲株式會社 (京都府綾部町)	宮城忠夫 同 生絲檢査所(橫濱市 本町)	星野 進 同 愛知縣寶飯郡下地町 下五井
西原淳一 同 同 福島支所 (西筑摩郡福島町)	宮坂 收 同 本校養蠶科 水野敏夫 同 片倉製絲一代交配種 普及團(松本市蠶玉町)	小口勝三 同 九〇株式會社(長野 縣小縣郡田中町)	宮崎忠祥 同 片倉高知製絲所(高 知市)	榎瀨政之助 同 茨城縣水戸市市本 四ノ九八一
茂山孝保 同 一志實業女學校(三 重縣一志郡久居町)	百瀬哲一 同 共榮社(長野縣東筑 摩郡鹽尻村)	大平正三 同 長野縣下伊那郡寄木 村	鈴木玄九 同 木曾川製絲株式會社 木曾川工場(愛知縣栗原郡木曾町)	中村治三郎 同 長崎紡績株式會社 (大阪府堺市)
田中 亮 同 臺北帝大理農學部 (臺北市)	六川忠一郎 同 上田市海野町四七四 六	笠原義人 同 常田館製絲場(上田 市)	須永 茂 同 群馬社(前橋市外元 總社)	矢島隆之助 糸十七 野戰重砲兵第一聯 隊第五中隊隊部候補生(千葉縣市川 町)
一ノ瀬貞嗣 蠶一八 共榮社蠶事部(長 野縣東筑摩郡鹽尻村)	細川俊雄 同 上田市諏訪形七二三 市川龍雄 同 長野縣北佐久郡三都 和村一〇七二	吉賀哲雄 同 群馬社(前橋市外元 總社)	荒木慎藏 選絲一八 東六工社(長野 縣松代町)	鈴木鐵次郎 糸四 山九製絲所(愛知縣 安城町)
千村敏三 同 長野縣蠶業取締所中 野支所(下高井郡中野町)	中澤喜雄 同 長野縣小縣郡關津村 西町二二五〇	田口喜一郎 同 大和組片倉製絲所 (長野縣諏訪郡川岸村)	林 謹一 同 長野縣諏訪郡平野村 鈴木保男 同 鈴木製絲場(山梨縣 東八代郡石和町)	高須兵司 蠶一 福島縣蠶業試驗場 (福島縣桑川町)
居崎利雄 同 高木館製絲所蠶事部 (長野縣上伊那郡伊那町)	村田一由 同 長野縣埴科郡南條村 五九七二	高松珍夫 同 群馬社(前橋市外元 總社)	張 復昇 同 女子蠶業學校(中華 民國上海行蘇州蘇州關)	上田忠景 紡一 愛知縣東春日井郡小 牧、小牧天理教支教會内
尾崎宗敬 同 坂東蠶業株式會社 (群馬縣前橋市岩神町)	三瓶常四郎 同 福島縣田村郡守山町 御代田字外城七	山田良人 同 新綾部製絲株式會社 (京都府綾部町)	關 幸作 同 東英製絲株式會社 製絲場(長野縣諏訪郡湖南村)	
太田 元 同 小口組製絲所(福島 縣郡山市)	上杉慶次郎 同 本校養蠶科 永井眞吉 選蠶一八 止善館蠶種製造 所(長野縣上高井郡須坂町小山區八 一〇一番地)	土田六衛 同 西川製糸所(八王子 市)	原井國男 選絲一八 小川製絲合資會 社(熊本縣下益城郡小川町)	
和田 敦 同 長野縣蠶業取締所豐 科支所(南安曇郡豐科町)		根津 建 同 若林製絲場(滋賀縣 犬上郡瀬村)	平林 茂 紡八 姫路市五軒邸一三八	